

演習科目(1年次必修科目)

演習科目は研究基礎演習およびケースメソッド演習で構成されます。総合的・実証的・実践的な研究・教育を目指して本学独自のポータルサイト【nfu.jp】上での学習と4回のスクーリング授業とを併用して行われます。

- ▶研究基礎演習：研究の基礎について学ぶ。(1年次4月～7月)
- ▶ケースメソッド演習：ケースメソッド演習を導入し、集団運営に必要な相互理解の視点や多角的な問題分析能力等を養う。(1年次9月～12月)

単位認定	●インターネット上での共同討議への参加	●レポート提出(計2回)	●スクーリング授業への参加(計4回)
------	---------------------	--------------	--------------------

修士論文指導教員紹介

※2026年度時点の情報を記載しています。指導教員は変更になる場合がございます。

青木 聖久 教授 キーワード 精神障害者、精神保健福祉士、所得保障、障害年金、無年金障害者問題、普及啓発	新谷 司 教授 キーワード 学際的、批判的会計学	伊藤 文人 教授 キーワード 批判的ソーシャルワーク、ソーシャルワークの価値と倫理、社会福祉と贈与関係の歴史的研究	伊藤 美智予 准教授 キーワード ケアの質評価、認知症ケア、マネジメント、プログラム開発と評価、災害時支援、家族支援
遠藤 秀紀 教授 キーワード 介護市場、計量分析、青年期から高齢期の金融に関する意思決定	大谷 京子 教授 キーワード ソーシャルワーク方法論、精神保健福祉、スーパービジョン、専門職アイデンティティ	川島 ゆり子 教授 キーワード 地域福祉、ソーシャルワーク、コミュニティソーシャルワーク、ボランティア活動	木全 和巳 教授 キーワード ディスアビリティ、セクシュアリティ、ソーシャルワーク、権利保障、発達保障
兄玉 善郎 教授 キーワード 福祉に環境、高齢者住宅、ユニバーサルデザイン、災害時要援護者	小松 理佐子 教授 キーワード 社会福祉の運営管理、地域福祉論、民間非営利セクター、地域、生活支援、社会福祉供給システム	斉藤 雅茂 教授 キーワード 高齢者、貧困・剥奪、社会的孤立・孤立死、セルフ・ネグレクト、社会的排除、介護サービス利用格差	杉本 浩章 教授 キーワード 終末期ケア、医療・福祉マネジメント、ソーシャルワーカー養成教育
中村 強士 准教授 キーワード 保育問題、保育制度・政策、子どもの貧困、子育て困難、子育て・家族支援	野尻 紀恵 教授 キーワード 子どもの権利、子どもの貧困、子どもの居場所、スクールソーシャルワーク、教育福祉、福祉教育、地域福祉	保正 友子 教授 キーワード ソーシャルワーカーのキャリア形成・実践能力・成長過程、ソーシャルワーク教育	堀場 純矢 教授 キーワード 児童養護施設、労働・生活問題、貧困問題、階層性
山口 みほ 准教授 キーワード ソーシャルワーク、医療福祉、薬物依存症、精神保健福祉、MSW養成教育・現任者研修、スーパービジョン	湯原 悦子 教授 キーワード 司法福祉、介護殺人の防止、介護者支援、虐待、非行、更生	横山 由香里 准教授 キーワード QOL、人とのつながりと健康、ストレス対処力、災害後の支援	鷲野 明美 教授 キーワード 刑事司法におけるソーシャルワーク、司法と福祉の連携
綿 祐二 教授 キーワード 発達障害の療育研究、障害者への支援、利用者本位の介護実践、福祉現場の倫理、福祉施設の人材育成、理論と実践の融合	渡辺 顕一郎 教授 キーワード 子ども家庭福祉、地域子育て支援、障害児支援		

修了生の声



高木 諒さん (社会福祉士／介護福祉士：教員)

福祉を学び始めた高校生の頃、そして大学で福祉を学んでいたあの頃に戻ったような気持ちで、「ふくしって面白い」と改めて実感した2年間でした。

大学院では、自分の教育実践をもとに問いを立て、研究として深めていく経験を重ねました。しかし、問いを追究するほど新たな問いが生まれ、学びの奥深さを実感しています。修了はゴールではなく、次の研究開始のホイスルです。

子育て、仕事、研究の三立は想像をはるかに超える大変さでしたが、本専攻の魅力である「全国に同じ志を持つ仲間」の存在が、私の気持ちをいつも前に向けてくれました。これからも問い続ける姿勢を大切にしながら、教育実践と研究をつなぎ、福祉教育の価値を社会に発信していきたいと考えています。



西釜 千尋さん (保育士：児童養護施設)

学部卒業後、社会人として働きながら大学院に進学しました。入学した理由は、心の中にある課題意識を、仕事や環境に慣れてしまう前に新鮮なまま持ち続けたかったからです。

名古屋でのスクーリングは、忙しい日々の中で何よりの楽しみでした。価値観や世代、職業の異なる院生とのディスカッションは大きな刺激となり、論文執筆では恩師との出会いにも恵まれました。修士論文のインタビューでは多くの児童養護施設職員の思いに触れ、その言葉を形にしようとこれまでで一番努力しました。

大学院での学びを通して、当初の課題意識を持ち続けるだけでなく、さらに深く考え続けるための出会いと準備を得られたと感じています。入学して本当によかった！